

「第11回 小説現代長編新人賞」受賞作決定のお知らせ

6月20日に選考会が行われ、第11回小説現代長編新人賞の受賞作が決定しましたので、お知らせいたします。

●第11回 小説現代長編新人賞

【選考委員】石田衣良・伊集院静・角田光代・花村萬月（五十音順・敬称略）

受賞作 『お師匠さま、整いました!』

著者 泉 ゆたか（いずみ・ゆたか）

奨励賞 『あの頃トン子と』

著者 城 明（じょう・あきら）

*贈呈式は10月21日（金曜）、講談社26階レセプションルームで行う予定です。

*受賞作の抄録は「小説現代」12月号（11月22日発売）に掲載予定です。

*単行本は2017年1月に弊社より刊行する予定です。

●小説現代長編新人賞、および奨励賞の過去の受賞一覧

	受賞作家	受賞作
第1回	長編新人賞／ヴァシィ章絵	『ワーホリ任侠伝』
	奨励賞／中路啓太	『火ノ児の剣——新井白石斬奸録』
第2回	長編新人賞／田牧大和	『花合せ—濱次お役者双六—』
	奨励賞／火田良子	『東京駅太郎』

◆この件に関するお問い合わせは講談社広報室（☎03-5395-3410）まで

第3回	長編新人賞／斎樹真琴	『地獄番 鬼蜘蛛日誌』
	奨励賞／朝井まかて	『実さえ花さえ、その葉さえ』
第4回	長編新人賞／加藤 元	『山姫抄』
第5回	長編新人賞／塩田武士	『盤上のアルファ』
	奨励賞／吉川永青	『我が糸は誰を操る』
第6回(この回はダブル受賞)	長編新人賞／長浦 京	『赤刃』
	長編新人賞／吉村龍一	『焰火』
第7回	長編新人賞／仁志耕一郎	『玉兔の望』
	奨励賞／朝倉宏景	『白球と爆弾』
第8回	長編新人賞／中澤日菜子	『柿の木、枇杷も木』
第9回	長編新人賞／小島 環	『三皇の琴 天地を鳴動さす』
第10回	長編新人賞／坂上 琴	『ヒモの穴』

●受賞作 『お師匠さま、整いました!』梗概

享保十一年、茅ヶ崎は浄見寺。歳の離れた夫を亡くしたばかりの桃は、算学者であった夫の跡を継ぎ、寺子屋の師匠をしている。しかし本当は勉強が苦手な桃は仕事に情熱が持てず、また、幼馴染みの大工・平助からの好意に気づきながらも夫との生活を忘れられずにいた。

ある日、酒匂川の氾濫で両親を亡くした春が浄見寺を訪ねてくる。もう一度算術を学び直したいという春の朴訥さ、一生懸命さに魅せられた桃は、寺子屋一の生意気な天才娘・鈴に手を焼きつつも、学ぶ喜びに気づいていく。

そんな中、酒匂川の治水工事が行われることが決まる。桃は新設された量地塾へ春を推薦し、平助も職人として量地塾へ通うことになる。推薦されなかったことが面白くない鈴は反抗的になるが、算学の難題を絵馬にして奉納する「算額」に取り組むことになり、桃の熱心な指導によって態度を改め、真剣に学問に打ち込むようになる。

平助の招きによって酒匂川へ向かった桃と鈴は、堤防を整備して人の役に立つ春と平助に感銘を受ける。しかし、天候が急変、突然の大雨で水かさが増した酒匂川に春が飲み込まれる。決死の覚悟で川に飛び込む桃。二人の命を救ったのは、春が設計した三角枠だった。

桃の指導のもと作成した「算額」の問題を量地塾の塾長に披露した鈴は、量

◆この件に関するお問い合わせは講談社広報室（☎03-5395-3410）まで

地塾で学ぶことが決まる。浄見寺に「算額」を奉納する鈴。教え子たちの成長を目の当たりにした桃は、いつしか寺子屋の仕事に誇りを持つようになった自分に気づいたのであった。

●著者 泉 ゆたか (いずみ・ゆたか)

1982年神奈川県逗子市生まれ。早稲田大学第二文学部、同大学院政治経済学部修士課程を卒業。大学在学中から小説の執筆をはじめ。現在は塾講師の傍ら、バイク専門誌のライターとして活動中。

●奨励賞 『あの頃トン子と』梗概

養豚業に従事する洋一は、トン子という育ちが悪い子ブタに「お手」や「お座り」を教えることにした。するとどうということか、面白いように覚える。洋一は次第にトン子のことが可愛くなり、左耳にピンクのリボンを付けて可愛がり始める。

そんなとき、幼馴染みのマナブが東京での仕事をやめて、地元に戻ってきた。トン子に興味を持ったマナブは、洋一の家に住居候することを決め、調教をはじめ。すると、トン子は「トンコ」と「エサ」という言葉を喋るようになったのだ。トン子を使って、一発当てられるかもしれない——そう思った二人は、地元のテレビ局にトン子のことを売り込む。芸をして、言葉を喋るブタに半信半疑だったテレビ局の面々も、実際にトン子を見ると一気に魅了され、テレビニュースでその様子が流れた。

これがきっかけとなり、東京のテレビ局からも番組の出演依頼が舞い込む。あれよあれよという間に、トン子は人気ものになり、洋一とマナブもトン子と一緒に上京するのだが——。

●著者 城 明 (じょう・あきら)

1959年宮城県気仙沼市生まれ。仙台第三高等学校卒業後、法政大学文学部へ進学し、その後中退。地元企業勤務後、退社。現在は執筆活動に専念中。

◆この件に関するお問い合わせは講談社広報室 (☎03-5395-3410) まで